

令和8年8月立山町教育委員会臨時会議事録

日 時 : 令和8年8月17日(月) 午前11時00分から12時00分まで

場 所 : 立山町役場4階 全員委員会室

出席委員の氏名: 教育長 杉田 孝志 2番 川原 陽 3番 久保田 真砂美
4番 堀田 充 5番 山本 智秋

事務局出席職員: 教育課長 作田 英信
課長補佐・学校教育係長 寶田 裕美
課長補佐・生涯学習係長 小橋 晴美
課長補佐・文化体育係長 寺崎 善一
教育政策係長 間野 達

会議の要旨

午前11時、教育長が開会を宣言する。

日程第1 議案第13号 立山町立学校の廃止について

教育課長から説明した。

教育長が可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

議事

◎議案第13号関係

(久保田委員)

事前に配布された資料のアンケートをしっかりと読んでみたが、これまで釜ヶ淵小学校の先生方と地域の方がすごく手厚く子供たちを見守っている環境の中で全く今まで不満がなかったという内容で、統合に対して、やはり不安があるから今まで通りではだめなのかという思いが読み取れた。

統合した学校で子供がちゃんと馴染めるかどうかという保護者の心理的な不安があるでしょうし、通学路が変わり交通状況も変わるところで、通学や熊問題などの安全面への不安の要素を少しでも解消できるように、私たちの統合に関しての進め方っていうのは、保護者の方、地域の方に分かりやすくお示しをしていかなければいけないというのを思いました。

(山本委員)

私もアンケートについて基本的には同じ考えです。複式学級や小規模に対してのメリットとかデメリットというものが、あまり皆さんには伝わってないのかなと感じました。アンケートでは、急だと考えてる人がものすごく多くて、そこは、今までの説明会の中でどうだったのか、その人たちがどう捉えていたのかというのが気になりました。アンケートの中に、まず統合した場合にどうなるのかっていうのを明示した上で、統合か存続か選ばせて欲しいというようなものがあって、それはその通りだなと思いました。統合した後のイメージっていうものをもう少し具体的に提示する必要があるんだろうというのを感しました。

私も、現状に皆さんが満足されていらっしゃるようなので、なぜじゃあ今はだめなのかっていうことを明確に伝えないと、なかなかその感情は変わらないんだろうなっていうことは考えました。今まで説明されているように、多様な意見に触れる機会が少ないとか、集団で活動す

る機会が少ないとか、人間関係が固定化されやすいというようなところを、しっかり伝えていくしかないんでしょうけど、なかなかそのエビデンスを探しても見つからなくて、どうしたものかなと思いました。

（教育長）

複式のメリットデメリットとか、なぜ今はだめなのか、それをどう分かってもらえるか、説明を重ねてきたが、そこがすごく難しい。

（山本委員）

先生方の負担とかそういったことも思いました。複式学級編制でやるのはすごく、先生たちが時間をかけ努力し、授業内容もきつとすごく工夫してやっていると思っているので、その工夫された分が学力低下には繋がってないんだろうと感じました。では、それをずっと維持できるのかどうかというところは、課題の1つなのかなと思いました。

（堀田委員）

負担といえば負担だろうと思います。二学年同時に見て、全てのことに二つの学年、それも、高学年はまだしも、低学年・中学年で体力や体格の違いに差があるときに、同じ活動をする・させるのは大変だと思います。

先ほど、少人数で人間関係が良いというのがあったけど、一方で、もし少人数のところで人間関係が崩れると、その解消は限りなく難しくなります。今現在良いかもしれないけど仮定の話でしかない。統合して、大きな規模の中での人間関係が心配というのも、それも仮定の話なので、そこでエビデンスを出せと言っても、限りなく難しいです。

やはり教育委員会は国の基準などから考えて、複式学級を解消する方向で動いている。そして令和6年から、小規模特認校でいろんな取り組みをして、児童数を増やす取組みを地域の協力を得ながらしてきたが、児童数の増加が見込めないので、学校統合による規模の適正を進める。アンケートは存続希望が0%になることはないと思います。存続希望は必ず誰かいるでしょうし、誰か1人が存続希望だから学校統合をやめますとは、本当に行政と言えるかとなると、国或いは行政の方向性に従わざるをえないかなと思います。

新しい学校環境で子供たちがいかに充実した学校生活を送ってくれるかを、丁寧に伝えながら行政として進めていく。今後、統合の話は釜ヶ淵だけじゃなくて、他も出てくるのは目に見えているこの児童数の減少なので、区切りを切って進めていかないと、今後も難しくなってくると思います。これは他の学校でも同じことがありますということを、はっきり提示しながら進めていく方がいいと思っています。

（川原委員）

経過措置という形で段階的に進めてこられたのでよかったんだなと思いながらこの資料を拝見していました。複式学級も、学校訪問で釜ヶ淵小も拝見させていただいた上で、私は統合されることに対して、賛成の立場でいます。立山中央小ばかりマンモスになるのはどうかと以前から思っていますが、現状として釜ヶ淵に新しい家族が増えてないことなど考えると致し方ないと思います。100%の親が賛成するのもありえないことなので、段階を踏んで、複式学級を解消するんだということを説明していくしかないと考えます。

(久保田委員)

今年の入学式は釜ヶ淵小学校に行きましたが、小さくて、本当に温かい雰囲気、学校に対して保護者の方がすごく協力的な印象を受けました。

アンケートの内容を見ても、しっかり自分たちの状況をどの校区よりも把握してる学校という印象はありましたので、先ほども言いましたように不安なところがいろいろあると思います。一番は何よりも、立山中央小学校というところでなじめるか馴染めないかっていうのが一番不安だと思います。

教育の環境という意味で言えばやはり小学校はある程度の人数がいて、その中でいろいろ育んでいけるものがたくさんあると思うので、そこでしっかり、子供たちもそういう環境の中で成長していった欲しいなというのは私が思うところです。

(山本委員)

小規模の小学校から中学校に上がるときに、何かデメリットは特になかったのですか。いきなり大きい人数の中に混ぜられることに対して、これまでそういう人たちの話はあったのでしょうか。とても面食らって、最初の半年ぐらひはすごく消極的だったとか、そういうことがあり得るのか、気になっています。私たちは結局、全体最適と継続性というものを主観にこの資料を見ているし、当事者の方たちは現在だけを見てお話をしているので、多分そのロジックが変わることはないと思いますが、中学校に上がるのは絶対やってくることなので、そこに対してどうなのかというのはちょっと気になってました。そういう話は来ていたり聞いたりしたことはありますか。

(教育長)

中学生になったお子さんの話ですね。あまりそういう話は今まで、説明会の中では出ていません。

(川原委員)

私は新瀬戸小学校だったので、小規模の良さは誰よりも分かっているつもりですけど、全く問題なかったです。何か、多いところにといいよりは、やっぱり少なすぎるコミュニティで、たまたま巡り合った同級生が4人とかで育つ方が大変かなと思います。相性悪い場合もある。

(杉田教育長)

最初の戸惑いは、きっとあると思います。

(久保田委員)

私の子供たちでは当時、学校同士の交流があったり、通学合宿に行ったりして、中学校入ったときには小さい学校同士で仲良くなっていました。親同士では心配するような話がありましたが、子供は意外とすんなり入ってくだなというのを経験しました。

(杉田教育長)

通学合宿は、立山青少年自然の家に1週間子供たちがそこで寝泊まりしながら、それぞれの学校にはバス送迎で通学して、いろんな学校の子供と一緒に生活するという事業です。また、春は6年生はスポーツを通じた交流会があり、秋には、5年生が自分たちで考えたゲームを通し

た交流会をやっています。また、普段から子供同士の交流があればというご意見を保護者から聞いていたので、校長会に投げかけて、令和6年度からは、全ての小学校で、行ったり来たりの交流を1年の中に何回か作っていますので、中学校に進んだときに全くの初対面にならずに少しでも知ってる子供がいるということになっていて、大きな抵抗というのは、昔ほどはないのではないのでしょうか。

(久保田委員)

スポーツ少年団などでも、他校との交流があってその繋がりで広がるっていうのも思います。

(杉田教育長)

小さな学校の保護者の皆さんは、いっぺんに立山中央小学校とか、雄山中学校といったときには、不安はお持ちだと思うんですが、大人が思うほど子供は抵抗を感じないのかなと思います。でも中にはやはり、大きな人数とか、音とかにすごく過敏なお子さんもいて、そういったことになかなか対応できないというお子さんもおられることは事実です。

(堀田委員)

保護者アンケートで、統合する場合の具体的な提案を要望されてますね。不安を解消していく具体的な要望のところを少しでも解消できるように、或いはその提案をある程度酌んでいけるようにしてあげることが、大事だと思います。

それとやはり、先ほどから子供たちの交流とか、その人間関係がという話なんですけど、新瀬戸小にしても交流活動を統合までにしていたと思います。それを、立山中央小は大変かもしれないですが、でも迎え入れる側もそれだけの意識をして、来る子たちも不安な気持ちに來てるよねっていう思いを子供たちに理解させながら活動ができれば、子供自身が楽しかったっていう思いを持たせてやれば、保護者の不安もなくなっていくと思います。

この要望を、ハード面だけでなく、ソフト面のそういった対応を、回数を重ねて取り組むことも大事なかなと思っています。

さきほど、中学校行ったら小さな小学校からではという話がありましたが、私の中学校時代の経験では、確かに最初はそうなんですけど、中学校では必ず、みんな新しい人という対応で、1週間ほどかけながら活動するわけです、交流できるように。そういったプログラムで入るので、同じように小学校は小学校で、そういう受け入れのプログラムを長い期間でしていれば、そんなに心配はないんじゃないかなと思います。よほど子供の方が柔軟じゃないかな、と。

もうひとつ、これは人事的なことで確約できないことですが、統合のときに、立山中央小に釜ヶ淵小におられた先生方が何人か、当然、来ていただきながら、声をかけていきながら子供たちを見てあげることができるとは思っています。

(杉田教育長)

そういった配慮を当然していかなければならないと思っています。

それから、釜ヶ淵小のPTAが独自にアンケートを実施され、その結果を資料として載せました。現在、小学校に在籍するお子さんの保護者は存続希望が多く、未就学児、これから入学していくお子さんの保護者は、一定規模で、複式でない学習環境の希望が多いです。

（山本委員）

複式でやるか、一定規模でやるか、ゼロベースでどちらか選んでいいよって言われたら、それは集団を選ぶのは当たり前なんじゃないかと思います。どちらも未知の状態だから、そうになったら一般的と呼ばれる方を選ぶっていうのは理解できます。これまでの結果として、小規模特認校に行く選択肢を取られた人が今現状は少ないという事実と合致するということなんじゃないかなと思います。

（川原委員）

私は小さい小学校の卒業なので、小規模の良さも理解できます。

（山本委員）

良い悪いが存在しなくて、人間関係がよくってだったら、私は立山小学校に最近よく行っていますが、一人一人スポットライトが当たっているのは、すごくいいなとは当然思います。

自分たちが主役になれて、自分の意見もどんどん言えて、手厚いサポート受けてるんだなというのは感じるので、それはそれですごくいいことだろうと思います。これが急に30分の1とかになったときに、寂しいな、あんなに手厚くサポート受けていたのに、とまらないのかなと思っています。

（川原委員）

以前に地域の方から、小規模だから先生たちがしっかり見てくれて良いといった言葉も受けました。

（山本委員）

多分、そんな感じだと思います。でも、ゼロベースで選ぶとなると、一般的な方が選ばれる。そのまま継続して、中学、高校と考えたときに、余計な負荷を与えないように、急に環境が変わるので、成功するのがほとんどだと思ったけど失敗する可能性もあると考えるんだったら、最初からその環境に身を置いた方がいいと、私は考えます。もちろん選択する自由があると思いますが。

（杉田教育長）

それは、先ほど言われた、人間関係が良いという前提の下であればということ。

（山本委員）

そうです。堀田委員も仮定とおっしゃったけど、それが継続できるかは誰にも分らないけど、この人数を見ていると継続性は保障されない気がする、そう思います。

（杉田教育長）

国が学校全体で12から18、学年で言うと2から3学級とする理由は、クラス替えができることがあります。やはり、クラスがいくつかあると、どうしても人間関係や、この子とこの子は違うクラスに離れた方がお互いに良いといった時に、配慮することができる。そういったことも想定して、1学年2から3学級を国は出していると考えています。